

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

日本企業は本当に変わることができるのか 早川 英男（東京財団政策研究所主任研究員、元日銀理事）

1. これまで儲かっても賃金上をせず、投資もせず、内部留保ばかり溜め込んできた日本企業が変わろうとしている。最大の変化は、30年ぶりの大幅な賃上げである。こうした変化の兆しを捉えて、日本企業は目覚めつつあると指摘する識者もいる。だが、本当に変わることができるのかとなると、話は別だ。この30年の間に日本企業、日本経済の足腰はさうとう弱ってしまったのだ。
2. 心配な変化の1つは、資本財の競争力低下である。15年前のリーマンショックのとき、日本は金融面の痛手は浅かったのに、景気ダメージは大きかった。これは、世界的な設備投資の落ち込みを背景に資本財輸出が激減したためだ。つまり、資本財産業の競争力の強さの反面でもあった。
3. もう1つの心配は、国際収支の中で「その他サービス収支」の赤字が顕著に拡大していることだ。ここには知的財産権の使用料や、通信・コンピューター・情報サービス、専門・経営コンサルティング、研究開発サービスなどの先端サービスが含まれており、やはり日本の競争力劣化を示唆する。この赤字拡大のため、インバウンド（訪日外国人旅行）急増でもサービス収支の赤字がなかなか減らない。

(参考:「週刊東洋経済」2023年6月24日号)

人事・労務について

読書は「学び」「考える」ができる

鎌田 浩毅（京都大学名誉教授）

1. 読書の魅力をひと言でお伝えすると、自分の人生を「プロデュース」するために一番よい方法だということ。知識や教養を得て、自分の人生哲学、生き方を考える上で読書は欠かすことができません。
2. いまやインターネットで何でも情報が手に入る時代になりましたが、それでも本を手に取り、自分の頭を使って考える。孔子が「学びて思わざれば則ちくらく、思うて学ばざれば則ち殆し」と説いているように、「学び」「考える」、この二つを共にできるのは、読書の最大の魅力だと思います。私は本を文房具の一種だと考えていますが、様々な気づきや学びを本に直接書き込むことで、自分だけの「ライブラリー」が出来上がる。紙の本は豊かな人生を過ごす上で必須アイテムです。

(参考:「致知」2023年7月号)

ワンポイント経営アドバイス

日本はもうアジアの盟主ではない

高橋秀仁（レゾナック・ホールディングス社長）

1. シンガポールにいた1992～98年の後、米国に異動し、日本の会社が持つ米国企業や資産の売却に関わりました。すると「なぜこんな買収をしたのか」といったケースが多かった。ものづくりの研究開発はすごいのに、経営は下手くそだなど。その後、外資系の日本法人の代表を2社で経験し、昭和電工に誘ってもらいました。
2. 日本人ってこんなに優秀なのに、なぜグローバルで勝てないのか。そしてその現実に気付かず、何んでこんなにくんきんのかという怒りを感じます。1人当たり国内総生産（GDP）で韓国や台湾に並べれ、もうアジアの盟主ではない。だから、この会社をやる気のある若い人たちが来たいと思ってくれるプラットフォームにしたい。「あそこに行ったら戦える」というような、戦闘能力の高い人が集まってくれるようにしたいです。

(参考:「日経ビジネス」2023年6月19日号)

古典に学ぶ

大日如来は宇宙のいとなみすべて

1. 真言宗では、如来は「大日如来」を指します。
2. 大日如来は、宇宙の中心にいる最高の存在であり、ダイナミックな宇宙そのもの。「宇宙のいとなみすべて」ともいえる存在です。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)